

ニヨリ議決スルノ權利ナシト言ハザルヘカラズ本条ハ如斯狭義ノ
モノニハ之レナク只議決スヘキ標準ヲ示シタルモノニシテ正反對
ノモノヲ議決スルハ不都合ナルモ之レニ抵触セザルモノハ仮令明
文ナキモ議決スルノ權利ヲ付与セラレタルモノト被考候
右答弁致候也

津久井郡中野村外四ヶ村

組合長 八木国次郎(印)

津久井郡参事会

津久井郡長 宇高正郎殿

津 第八四〇号

明治廿九年五月四日発議同月同日施行 主任 山下恒吉(印)

郡長(印)

内務部長ニ問合案

本年三月六日付第一課議第一二四号ヲ以テ本郡中野村外四ヶ村組合
会ニ於テ該組合ヲ分離スルノ件議決シタルハ穩当ナラズ全ク組合内
町村ノ協議ニ依ルヘキ筋ノモノニ有之旨御注意之次第モ有之候ニ付
其旨ヲ訓令シ議決ヲ取消サシメントシタルモ再議ノ上前議決ノ正当
ナルヲ主張シ前議決ヲ更メサルヨシヲ以組合長ヨリ郡参事会ノ裁決

ヲ請求シタルニ付不日裁決ヲ施スヘキ見込ニテ目下審理中ニ有之候
得共聊カ疑惑ヲ生シ候ニ付左ノ事項御問合及候条御明示ヲ煩シ度至
急何分之御回報相成度候也

一 市町村制理由書中町村制第六章町村組合ノ部末項ニ「組合町村
ハ之ヲ解クノ議決ヲ為スヲ得ト雖トモ郡長ノ許可ヲ要ス」ト有之
モ町村会ヨリ胚胎シタル組合会ニ於テ之ヲ議決スルヲ得ズシテ協
議ニ依ルヘキ理由奈何

二 組合会ハ町村会ニ非スト云フ義乎

三 組合会ニ於テ議決スヘキモノニアラズシテ組合町村固有ノ町村
会ニ非ザレハ組合ヲ解クノ議決ヲ為シ得サル乎

四 組合会ニ於テ議決シ得ルモ協議ニ依ラシムヘシトノ意ナルヤ果
シテ然ラハ組合会ニ於テ議決スルハ不穩当ナリト云ハル、ハ奈何

五 二十八年十二月十八日第一課庶第一一六二号ヲ以テ通牒ノ福島
県照会ハ組合規約變更ノ場合ノ注意ニ過キズシテ組合分離議決ニ

ハ關係ナキ様思考セラル、ガ奈何ノモノニ候哉

明治二十九年五月四日

津久井郡長 宇高正郎

内務部長 荒川義太郎殿

第1章 郡制市制町村制

町村組合取扱心得

- 一 町村組合ヲシテ本制第一百七条第二項ノ協議規定ヲ為スベシ
但左ノ方向ヲ取り其手續ヲ為スモノトス
- 一 町村組合中ニ町村長及助役収入役各一人ヲ置ク
- 一 書記付属員委員ノ数等ハ組合町村ノ多少ニ由リ適宜ニ任スルコト
- ト
- 一 組合会議ノ議員ハ各町村全数トシ其率ハ村数ノ多少ニ依リ各三名以内ト定メ其町村会ノ議員ヲシテ互選セシム
但シ特別ニ会議ヲ開カサル町村ハ更ニ選舉セシムルコト
- 一 議決ノ制限ハ本制第四十三条(議員三分ノ二以上出席云々)ニ由ルモノトス
- 一 共同処弁ノ事務ヲ定ムルコト
- 一 町村組合条例ヲ以テ規定ヲ要スル事件ヲ定ムルコト
- 一 費用ノ分担方法ヲ定ムルコト
- 一 組合中共有財産ノ外組合内各町村ノ所有ニ属スル財産ヲ共同管理スルヤ否ノコト若シ之レカ共同管理ヲ要スルモノハ其管理方法ヲ定ムルコト
- 一 組合共同財産及組合ニ於テ共同管理スル財産処分方ヲ定ムルコト
- ト
- 一 組合ニ要スル経費ノ収入支出ハ之レヲ共通スルコト

一 前項ノ協議ハ其組合中町村ヨリ各惣代人三名以内ヲ選出シ其手續ヲ為サシムルモノトス

一 組合協議ノ調ヒタルトキハ惣代人連署ノ上元戸長ヲ経テ郡長ニ具申セシムルモノトス

一 郡長ハ前項ノ具申ニ由リ直チニ戸長ニ命シテ組合会議々員選舉ノ手續キヲ為サシムルモノトス

一 組合協議ノ調ハサル場合ニ於テハ本制第一百七条第二項ニ由リ郡長ニ於テ之レヲ定ムルモノトス

一 町村長ハ何町村外何ケ町村組合町村長ト称スルモノトス

一 町村役場ハ何町村外何町村組合役場ト称スルモノトス

一 組合設置方ノ達シ及ヒ其他ノ公告等ハ別紙書式ニ拠ルモノトス
一 前各項ノ外ハ町村制施行順序ニ拠ルモノトス

(注) 別紙欠。

津 第九五二号

明治廿九年五月一八日

主任 大塚 豊 (印)

郡長 (印) 書記 (印)

裁決書送付案

其組合分離ニ関スル別紙裁決書及送付候条受領証差出相成度此段申

進候也

明治廿九年五月十八日

津久井郡役所

中野村外四ヶ村組合長 八木国次郎殿

(注) 前掲、証拠物写参照。

津 第九八〇号

明治廿九年五月廿一日発議同月同日施行

主任 山下恒吉(印)

郡長(印) 書記(印)

本県へ報告案

津久井郡役所

郡下中野村外四ヶ村組合長ヨリ中野村外四ヶ村組合会ニ於テ去ル二月廿五日該組合分離ノ件ヲ議決セシニ依リ組合分離ハ組合町村ノ協議ニ出ツヘキモノニシテ組合会ニ於テ議決スヘカラサルモノトシ取消スヘキ旨ヲ訓令セリ依テ四月十八日組合分離議決取消ヲ再議セシムルト雖トモ組合会ハ固ク前議ノ正当ナルヲ主張シ決シテ権限ヲ越ヘタルモノニ非ズト議決シ更メサルニ依リ本郡参事会ノ裁決ヲ請求スルニ付審査之上左ノ如ク裁決ヲ与ヘタリ
中野村外四ヶ村組合会ニ於テ組合分離ノ件ヲ議決シタルハ町村制其

他法律中依拠スヘキ適条ナク且ツ組合協議規定中明文ナキヲ以テ權限ヲ越ヘタル議決トス依テ神奈川県津久井郡長カ議決取消ヲ訓令シタルハ不当ノ処置ニ非ス

津 第一〇七四号

明治廿九年五月廿九日発議同月同日施行

主任 山下恒吉(印)

郡長(印) 書記(印)

別紙願書本県へ進達案

郡下中野村外四ヶ村組合会議長同組合長八木国次郎ヨリ中野村外四ヶ村組合会職務権限ニ関スル願別紙^(注)之通り差出シ来候ニ付及進達候也

明治二十九年五月二十九日

津久井郡長 宇高正郎

神奈川県知事 中野健明殿

(注) 前掲、証拠物写参照。

(朱書) 『第一課議第三一二号』

御部内中野村外四ヶ村組合会決議ニ係ル全組合分離ノ件ニ関シ本月四日津庶第八四〇号ヲ以テ縷々御照会之処右組合内各町村会ニ於テ

ハ之ヲ解クノ議決ヲ為スヲ得ルト雖組合ニ於テハ之ヲ議決スルヲ得サルハ元來組合ナルモノハ關係町村ニ於テ協議ノ上組合會議ノ組織事務管理ノ方法及費用支弁ノ方法等ヲ定メ始メテ組織スルモノナルヲ以テ組合会ノ權限ハ協議規定ニ依リ与ヘラレタル範圍内ニ止リ組合ヲ解クト云フ如キ協議規定以外ノ事項ヲ議スルノ權限ヲ有セサルモノニ有之候故ニ組合ヲ解カントスル場合ハ当初之ヲ組織シタル時ト均シク關係町村ノ協議ニ依ラサルヘカラサル義ニ有之候間右ニ御承知相成度此段及回答候也

明治二十九年五月十一日

内務部長 荒川義太郎(印)

津久井郡長 宇高正郎殿

追テ本件ニ就テハ客年五月廿五日官報第三五六九号掲載行政裁判所判決二十七年第五九号裁判宣告書御参照相成度為念申添候也

〔朱書〕
『第一課庶第四四七号』

御部内中野村外四ヶ村組合長より提出之訴願書去月廿九日庶第一〇七四号ヲ以テ進達相成候処付屬書類トシテ添付之協議規定書中左記之通り去ル廿二年五月十六日津庶第四九八号ヲ以テ御報告相成候協議規定書ト符合不致候条御取調至急御回報相成度此段及照会候也

明治廿九年六月三日

内務部長 荒川義太郎(印)

津久井郡長 宇高正郎殿

- 一 今回提出ノ規定書第二項但書中ニ「二ヶ月以内」トアルモ最前郡長ノ報告ニハ「直」トアリ
- 一 今回提出ノ規定書中「第十項此規定ニナキモノハ總テ本制ニ依ルモノトス」トアルモ最前郡長ノ報告ニハ此項ナシ

津 第一一四三号

明治廿九年六月四日發議同月同日施行

主任 山下恒吉(印)

郡長(印) 書記(印)

内務部長ニ回答案

第一課庶第四四七号ヲ以テ中^(マ)村外四ヶ村組合長ヨリ提出之訴願書付屬書類トシテ添付之協議規定書ニ関シ取調之義云々御照会之趣了承即取調候処右ハ別紙写之通り過ル廿五年中組合会ニ於テ議決報告相成候事ヲ此度ノ件ニ関シ古書類ノ内ヨリ發見末々取調フルニ其當時書類ヲ受理シタルモ御庁ヘノ報告ヲ為サ、リシノミナラズ旧協議規定書中ニ修正ノ書入ヲモ為シ置カサルヲ見レハ一旦受理シタルノ

ミニテ荏苒今日ニ到リタルモノト思料セラレ甚不都合ノ次第二候得共右御了承相成度此段御回答及候也

明治二十九年六月四日

津久井郡長 宇高正郎

内務部長 荒川義太郎殿

〔朱書〕

追而本文之次第ナルヲ以其當時当郡役所ニテ別ニ許可シタルモノニモ無之候且ツ別紙旧組合村長添付ノ報告書ニ依レバ其當時モ組合会ニテ協議規定ヲ修正追加シタルモノト存セラレ候此段モ申添候也

〔朱書〕
『第三五八号』

八月二十日中野村外四ヶ村組合会ニ於テ左記之通り議決相成候ニ付議事録相添へ此段及報告候也

明治貳拾九年八月廿七日

津久井郡中野村外四ヶ村
組合長 八木国次郎 (印)

津久井郡長 宇高正郎殿

一 中野村外四ヶ村組合会職務権限ニ関シ神奈川県知事ノ裁決ニ服従スル能ハザルニ依リ行政裁判所へ出訴スヘキモノト議決ス
一 行政裁判ニ係ル一切ノ費用ハ予備費ヲ以テ支弁スルコトニ議決

ス

中野村外四ヶ村組合会議事録

明治廿九年八月二十日中野村外四ヶ村組合会職務権限ニ付神奈川県知事ノ裁決ニ関スル件議決ノ為メ当組合役場ニ於テ中野村外四ヶ村組合会ヲ開ク出席議員左ノ如シ

- 壹 番 小室 五右衛門
- 貳 番 大塚 兼太郎
- 三 番 石 井 房 藏
- 四 番 山本 九郎兵衛
- 五 番 小野沢 喜一郎
- 六 番 島 崎 周 作
- 七 番 齊 藤 六兵衛
- 八 番 大塚 藤 吉
- 拾貳番 大塚 平右衛門
- 拾四番 梶 野 一 郎
- 拾五番 梶 野 一 郎

同日午后三時組合長八木国次郎議長トナリ出席議員一同着席開会ス議長曰ク本日ノ會議ハ当組合会職務権限ニ関シ本県知事ノ裁決ニ服従スル哉否ヤヲ決スル為メ諸君ヲ煩ハシタルモノニ付宜シク御審議

之レアリタシ拾五番曰ク本県知事ノ裁決ハ組合規定ニ明文ナキヲ以テ権限外トノ裁決ニ服従スル能ハズ何トナレバ組合規定ニハ共同支弁スベキ費目及其負担割合ヲ定メタルノ外ハ組合会ノ議決スベキ事件ハ一モ定メタルコトナシ若シ知事ノ裁決ノ如ク明文ナキヲ以テ議決スルノ權利ナシトスレバ歳入出予算及決算報告認定ノ如キモ是レ又明文ナキヲ以テ権限外トセザルヲ得ス其他組合条例及會議細則名譽職員退職ニ関シ処分ノ件等一モ明文ナシト雖モ已ニ議決ノ上報告受理シタルモノニシテ独リ組合分離ニ限リ権限外トナシタルハ不当ノ裁決ト言ハザルヲ得ス又組合ノ存廢ハ組合内各村ノ利害ニ関スルヲ以テ特ニ権限ヲ付与セザル限リハ組合会ニ議權ナシト言フト雖モ是レ又解セザルノ説明ニシテ組合会ノ議決ハ悉ク組合各村ノ利害ニ關係セザルモノナシ仮令ハ組合条例ヲ設ケレハ該条例ニ依リテ利害ヲ受クルハ条例ヲ設ケタル結果ニシテ又歳入出予算ヲ減スレハ納税者ハ利益ヲ蒙リ増額スレバ害ヲ受クルハ本員ノ喋々ヲ俟タズ何ゾ組合分離ニ限リ利害ニ関スルトノ裁決ハ我々ノ服従スルコト能ハザルモノニ依リ行政裁判所へ出訴シ当組合^(合脱)ノ意見ヲ貫徹シタキモノト考ラレ候ニ付御賛成アリタシ七番曰ク本員ハ拾五番ノ説ニ賛成シ且ツ出訴スルニ費用ヲ要スルニヨリ行政裁判ニ関スル一切ノ費用ハ予備

費ヲ以テ支出シ若シ不足ヲ生スルトキハ追徴シテ補充シタキ考ニ依リ御賛成アリタシ二番五番八番等ノ賛成アリ説会省略ニテ全会一致ヲ以テ拾五番并ニ七番ノ説ニ確定ス時ニ午后五時三十分閉會ス右會議ノ顛末ヲ記録シ其正当ナルヲ証スル為メ爰ニ署名捺印ス
明治廿九年八月二十日

議長 八木 国次郎印
議員 山本 九郎兵衛印
同 大塚 平右衛門印
同 島 崎 周 作印

(三)

明治廿九年十月七日
不当裁決取消請求訴訟ノ答書

神奈川県津久井郡長
被告 宇高 正郎
神奈川県津久井郡中野村外
四ヶ村組合會議長全組合員長
原告 八木 国次郎
東京市麴町区内幸町
一丁目三番地弁護士
右訴訟代理人 利光 鶴松

一定ノ申立

神奈川県津久井郡中野村外四ヶ村組合会ニ於テ組合分離ノ議決ヲ為シタルハ権限ヲ越ヘタルノ議決ナルヲ以テ被告ノ与ヘタル裁決ハ取消スヘキモノニアラス訴訟費用ハ原告ノ負担トスト判決相成度候也

事實

原告申立ノ通

理由

被告答弁ノ理由ハ明治廿九年五月十八日裁第一号裁決書〔原告提出付屬書第二号〕及明治廿九年六月三日津庶第一一二九号ヲ以テ神奈川県知事野健明ニ提出シタル原告ノ訴願ニ対スル弁明書〔被告提出付屬書第一号〕ニ大体論シタルト雖トモ尚ホ原告訴訟ノ論旨ニ対シ二三弁駁スル所アラントス

第一 原告ハ本組合協議規定書第十項ニ「此規定ニナキモノハ本制ニ依ルモノトス」トアルヲ以テ町村会ニ属スル権限ハ本組合会ノ権限ト一ノ相違スル点アルヲ見ズト云フト雖トモ是レ事理ヲ顛倒スルノ甚シト云フベシ何ントナレハ協議規定第十項アルヲ以テ直ニ町村会ノ権限ト一モ相違スル処ナシトスルトキハ特ニ協議規定ニ議員ノ選挙村長助役ノ選挙付屬員等ノ選任其他協議規定第一項ヨリ第十項ニ至ルノ数項ヲ規定明記スルノ必要ナク単ニ本組合規

定ハ本制ニ依ルトノ数文字アレハ足レリトス然ルニ殊更ニ数項ノ規定書ヲ要スル所以ハ町村組合ハ町村制第一百六条乃至第一百八条ニ依ルノ外令制中他ニ則ルヘキ明文ナキヲ以テ斯ク規定シタルモノタルヤ明ナリ

第二 原告ハ既ニ関係組合各村ニ於テ協議ノ上協議規定ニ依リ一ノ

組合会成立シタル以上ハ即チ其代議機關存スルヲ以テ之ニ依テ其組合ノ意思ヲ發表スヘク從テ其意思ノ存スル処ニ依テ組合会ノ存廢ヲモ決議シ得ヘキハ当然ナレハナリ況ンヤ町村制及組合協議規定ニ如斯決議權ナシトノ所謂禁止の規定又ハ之ニ抵触スヘキ条項アルニアラサルヲヤト云フト雖トモ是亦町村制ノ精神ヲ誤解シタルモノナリ何トナレハ組合会ナルモノハ関係町村ノ協議シタル協議規定ヲ以テ命シタルモノ、外ハ何等ノ事ヲモ議決シ得ヘカラサルハ町村制第一百七條ニ依ルモ明ナリ加之原告ガ第一論旨ニ依レバ協議規定書第十項ニ「此規定ニナキモノハ本制ニ依ルモノトス」トノ結文ヲ以テ協議規定ニ定ムル事項以外ノ事ハ議シ得ヘカラサルコトヲ自認シ居ルカ故ニ敢テ喋々ノ弁ヲ須キス

第三 原告ハ組合ノ存廢ハ組合内各村ニ直接利害ノ關係ヲ有スルヲ以テ其各村ニ限り組合ヲ解除スルノ権限アリトナサンカ是其代議機關タル組合会ヲ無視シタルモノナリ云々〔中略〕県參事会ノ説

明ハ組合ニ何物タルヲ弁識セサルモノナリト云フト雖モ是レ却テ原告ガ組合ニ何物タルヲ弁識セサルモノナリ何トナレバ抑モ組合ナルモノハ付屬書第一号ニ弁明シタル如ク町村会ト全シク広大ナル権限ヲ有スルモノニアラス町村制第十七条ニ町村組合ヲ設クルノ協議ヲ為ストキハ組合會議ノ組織事務管理ノ方法〔中略〕前条第二項ノ場合ニ於テハ〔中略〕組合費用ノ分担其他必要ノ事項ヲ規定スヘシトノ明文ニ依リ協議シテ其組織ノ方法ヲ規定スルモノナレハ規定ノ範圍外ニ出テ、ハ其事ノ何タルヲ問ハス議決スルノ権能ナキハ上來既ニ論スル処ノ如シ

第四 原告ハ抑モ五ヶ村更ニ協議ヲ遂クヘシト為スハ全ク其代議機關タル組合ヲ無視シタルモノニシテ即チ組合会ナキ場合ト全一ノ場合ヲ論スルモノト一般ニシテ甚タ無謂ノ論旨タリト云フト雖トモ仮令ヒ組合会ハ成立シアルモ是ヲ議決スルノ権限ナキヲ如何セン故ニ組合分離ハ五ヶ村ノ協議ニ出ツルカ五ヶ村々々ニ於テ議決ノ上組合分離ノ希望ヲ監督官庁ニ上申スルニ止ルノ外術ナカルヘシ況ンヤ中野村外四ヶ村組合ハ当初全制百十六条第二項ニ依リ郡達〔被告提出付屬書第二号〕ヲ以テ組合ヲ設ケシメタルモノニシテ全条第一項ニ依リ五ヶ村自身カ協議ノ上組合ヲ設ケタルモノニアラサルニ於テヲヤ

第五 原告ハ且如斯議決ハ村会ニ於テスヘシトノ町村制ノ規定ナシ又實際町村会力之ヲ議セントスルモ其各町村ハ利害相反シ又ハ絶對ニ利害ノ關係ナキ町村アルヲ以テ到底正當ノ議決ヲ為シ得サルヤ明ナリト云フモ是レ自家撞着ノ論ナリ其故何トナレハ町村会ハ法律上町村ノ代議機關ニシテ即チ町村ノ意思ヲ發表シ又意思ノアル処ヲ議決シ得ヘキ広キ性質ヲ有スルモノニシテ組合会ノ如ク範圍ノ狭小ナルモノニアラサレバ町村会ノ成立シアル以上ハ其町村ノ利害得失ニ關スル事件ハ法理上當然町村会ニ於テ議決スヘキモノニシテ町村制ノ精神モ亦茲ニアルヤ疑ヲ容レズ況ンヤ原告自ラ云フ各町村ハ利害相反シ又利害ノ關係ナキ町村アルト云フカ如キ一大重要ナル組合分離ノ事件ナレバ尚更親切ニ關係五ヶ村ニ議リ遺憾ナキヲ期スルコソ至當ナラメ決シテ組合会ニ於テ輕卒ニ議決スヘキモノニアラス仮リニ一步ヲ讓リ協議規定ニ於テ組合会ニ議決セシムルコトヲ命シアルモノトスルモ尚ホ組合會議員ハ德義上円滑ヲ図リ關係町村ニ協議セシムルヲ穩當ノ処置ナリトス然ルヲ況ンヤ組合会ニ是等ヲ議決スルノ権能ナキニ於テヲヤ

終ニ臨ンテ尚ホ一言セン協議規定ヲ閱スルニ委員ノ選舉其他書記付屬員等ノ選任ヲ組合会又ハ村長ニ任セアルニモ拘ハラス村長助役ハ各村會議員ヲ合シ會議ヲ開キ選舉ストアリ是レ何カ故ゾ蓋シ村長助

役ノ選舉ハ組合全体ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ繁雜ヲモ厭ハズ特ニ鄭重ヲ加ヘタルモノナラン果シテ然ラハ村長助役ノ選任ト組合分離トハ孰レカ重キヤ是レ識者ヲ俟タスシテ明ナリ依之看之モ当初五ヶ村カ協議規定ヲ定メシ時斯ル広大ナル權限ヲ組合ニ与ヘサリシヤモ亦燎々乎トシテ火ヲ見ルカ如シ

立証

付屬第一号書第二号書ノ外目下証拠物トシテ提出スヘキモノナシ

明治廿九年十月七日

被告 宇高 正郎

行政裁判所長官 箕作麟祥殿

明治廿九年十月七日

証拠物寫

被告 宇高 正郎

〔朱書〕
『付屬書第壹号』証拠物寫

津庶第一一二九号

弁明書

本郡中野村外四ヶ村組合會議長八木国次郎ヨリ提出シタル全組合會議決越權ノ裁決ニ関シタル訴願書ニ対シ左ニ一言ヲ弁セントス

訴願者訴弁スル処ノ文意ニ拠レハ關係五ヶ村カ協議ニテ組合規定ヲ定メ組合ニ通スル事務ハ総テ組合ニテ処弁シ之ニ要スル費用ハ組合費ヲ以テ支弁スルモノト規定シ別段組合会ノ職務權限ハ規定セサルモ其末項ニ「此規定ニナキモノハ總テ本制ニ依ルモノトス」トシタルハ組合会ノ職務權限及処務規定ノ如キハ本制第三十二条ヨリ全第五十条ニ至ルノ規定ニ準拠スルハ論ヲ俟タス何ゾ組合会ト各村会トノ職務權限ニ相違アルヲ見スト云フヲ以テ訴願ノ主眼ト為スモノノ如シト雖トモ元來組合共同処弁ノ事務トハ組合村長助役等組合吏員ノ執ルヘキ行政事務〔協議規定第七項參看〕ニシテ組合會議員ノ敢テ関涉スヘキモノニ非ス組合会ハ只共同支弁スヘキ費目及其負担割合〔協議規定第八項參看〕ヲ議スル等協議規定定ムルノ外權限ヲ有セサルモノトス何トナレハ抑モ協議規定ナルモノハ五ヶ村ノ協議ニ成立タルモノニシテ五ヶ村々民ハ協議規定ニ明記スルノ外広く權ヲ与ヘタルモノニアラサレハナリ況ンヤ協議規定末項此規定ニナキモノハ總テ本制ニ依ルモノトストノ制裁アルニ於テヲヤ是レ畢竟各村会ト組合会ト職務權限ノ異ナル所以ナリ然ルニ訴願者論スルカ如ク協議規定末項ニ本制ニ依ルモノトストノ明文アル以上ハ此協議規定ニ明記ナキモ其事項ノ何タルヲ問ハス組合会ニ於テ議シ得ヘシトセバ何ソ故サラニ協議規定ヲ定ムルノ必要アラランヤ協議規定末

項ニ此制裁ヲ置キタルハ当初五ヶ村々民ハ組合會議權ノ濫用ヲ恐レ
之カ予防ヲ為シタルモノニシテ即チ今回ノ如ク之レヲ五ヶ村ニ議ラ
ス組合會議員ノミニテ濫リニ組合ヲ分離スルコトヲ議決スルカ如キ
弊ナカラシメンコトヲ慮リ以制裁ヲ加ヘタルヤモ亦想察スルニ余ア
リ訴願者ハ此末項ノ明文アルカ故ニ組合會ニ於テ議シ得ヘシト主張
スルモ裁決者ハ之レアル以上ハ益々組合會ニ於テ議スヘキモノニア
ラスシテ五ヶ村ノ協議ニ出ツルカ又ハ本制ニ依リ五ヶ村々會ニ於テ
議スヘキモノナルヲ確信ス要スルニ組合會ナルモノハ訴願者云フ如
キ汎博ナル議權ヲ有スルモノニ非ス組合協議規定ムル処ノ狭小ナ
ル範圍内ニ於テ運動スヘキモノト思考ス他ハ裁決書中既ニ説明シ置
キタルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス右訴願法第拾壹條ニ依リ弁明候也

明治廿九年六月三日

神奈川県

津久井郡長 宇高正郎

神奈川県知事 中野健明殿

〔朱書〕
『付屬書第貳号』

達第貳号

根小屋村
太井村

中野村
又野村
三ヶ木村
其村々町村制第十六條第二項ニ依リ組合ヲ設ケシム
明治廿二年四月一日
津久井郡長 吉野十郎

右写之通相違無之候也

明治廿九年十月七日

被告 宇高正郎

理由追申書

原告訴弁スル所ノ主眼ハ組合協議規定第十項ニ「此規定ニナキモノ
ハ本制ニ依ルモノトス」トアルヲ以テ規定以外ノ事項ハ総テ町村會
ト同シク何等ノ事ヲモ議決シ得ラル、モノナリトノ解釈ヲ以テ規定
第十項ヲ第一ノ立証ト為スモノ、如シト雖モ抑モ中野村外四ヶ村組
合ノ協議規定（被告提出付屬書甲号參看）ハ明治廿二年四月町村制実施ノ際即チ
組合ヲ設ケシメタル時五ヶ村各總代人ヲ設ケ協議シテ定メタルモノ
ナルヲ其後明治廿五年八月廿二日組合會議ノ議決ヲ以テ第八項但シ
書及ヒ第十項ヲ追加改正シタルモノナルコトヲ發見セリ爰ヲ以テ該

改正協議規定書(被告提出付属 書乙号参看)ハ到底其効ナキモノナルヲ確信ス其

故何トナレハ協議規定ハ町村制第十六条及全第十七条第二項
「前条第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分
担法等其他必要ノ事項ヲ規定スヘシ云々」トアル法文ニ依リ協議規
定スヘキモノナリ依之考之仮令組合會議成立ノ後ト雖モ苟モ組合五
ヶ村ニ直接利害ノ關係スル協議規定ヲ改正増補スルニ之ヲ五ヶ村ニ
議ラズ最初ノ協議規定ニヨリ組織スル処ノ組合會議員ノミノ専斷議
決ヲ以テ規定ヲ改正シタルハ第一法律ニ違反スル無効ノ協議規定ナ
リト斷定スルニ躊躇セサルナリ尤モ最初ノ協議規定中將來斯ノ規定
ノ条文ヲ改正増補セントスルトキハ之ヲ組合會議ニ委任スルトノ明
文アレハ格別ナリト雖モ最初ノ協議規定中是等ノ議權ヲ与ヘタル条
文ナキヲ如何セン依テ中野村外四ヶ村組合会カ明治廿五年八月組合
協議規定ヲ改補シタルハ今回原告カ中野村外四ヶ村組合分離ノ件ヲ
議決シタルト同一ノ議決ニシテ五ヶ村々民ヲ輕蔑シ法律ヲ無視シタ
ル不法ノ議決ナルヲ確信ス斯ク論シ去レハ原告カ金城鉄壁ト頼ム処
ノ改正協議規定第十項ハ何等ノ効力モナキ空文ニシテ随テ本案原告
カ訴訟ハ根本的破壊ニ到ルヤモ期シテ視ルヘキナリ以上述フルカ如
キ事實ヲ發見候間旁以テ被告ノ与ヘタル裁決ハ取消ヘキモノニ非ス
ト判決相成度候也

明治廿九年十月廿三日

神奈川県津久井郡長

宇高正郎

行政裁判所長官 箕作麟祥殿

(朱書)

「此書面ハ十月二十三日行政裁判所訟廷ニ於テ弁論ノ際口述ヲ以陳
弁シ当該書面一通ヲ提出セリ」(印)

(四)

(朱書)
「明治二十九年第八十六号」

裁判宣告書

原告

神奈川県津久井郡中野村外
四ヶ村組合會議長同組合長

八木国次郎

訴訟代理人

東京市麴町区内幸町一丁目
三番地

弁護士 利光鶴松

同所

弁護士 齋藤二郎

被告

神奈川県津久井郡長

宇高正郎

右原告八木国次郎ヨリ被告神奈川県津久井郡長宇高正郎ニ対スル不
当処分取消請求ノ訴原被双方ノ弁論ヲ聴キ審理ヲ遂ル処

原告請求ノ要旨ハ明治二十九年二月二十五日中野村外四ヶ村組合分
ハ区域大ニシテ人情風俗ヲ異ニシ自治ノ実挙ヲラサレ故ニ組合会分
離ノ議決ヲ為シ之ヲ被告ニ報告シタルニ被告ハ本年四月九日付ヲ以
テ組合会ハ分離ノ議決ヲ為シ得ヘキモノニアラス依テ之ヲ取消スヘ
シト訓令セラレタリ故ニ組合会ハ同年四月十八日更ニ会議ヲ開キ被
告ノ訓令ニ拠リ再議ニ付シタルニ組合会ニ於テハ前議ヲ主張シ決シ
テ其権限ヲ越ヘタルモノニ非スト議決シ尚ホ津久井郡参事会ノ裁決
ヲ求メタルニ今郡参事会ハ組合分離ハ組合五ヶ村ノ協議ニ出ツルカ
又ハ該五ヶ村ノ村会ニ於テ議スヘキモノニシテ組合会自ラニ於テ議
決スヘキモノニ非ス依テ組合ノ分離ヲ議決シタルハ不法ニシテ被告
郡長ノ訓令ハ不当ニ非スト裁決セラレタルヲ以テ更ニ本年五月二十
八日神奈川県参事会ニ訴願セシニ同県参事会ハ被告郡長ノ与ヘタル
裁決ハ取消スヘキモノニ非スト裁決セラレタリ抑モ本件ノ争点ハ町
村制第百十六条乃至第百十八条ノ規定ト組合規定書トノ関係ヨリ起

ルモノナリ被告ハ組合会ハ該規定以外ノ事柄ニ付テハ一切議決スル
ノ權ナシト云フモ元來組合規定書第十項ノ此規定ニナキモノハ総テ
本制ニ依ルモノトストアルハ組合ハ町村会ト全一ニシテ組合ヲ分離
スル議決ヲ為スハ一ニ組合ニ属スル権限ニシテ敢テ越權ノ議決ニア
ラス已ニ組合会ナル五ヶ村ノ代議機關ノ存設シアル以上ハ之カ分離
ヲ組合会ニ於テ議決スルハ当然ナリ若シ特別ニ之カ禁令アルトキハ
組合会ト雖トモ其分離ハ議決シ得ヘキモノニアラサルモ更ニ其禁令
ナシ禁令ナキ以上ハ議決シ得ルモノト信ス又被告ハ分離ニ付テ毛組
合会設置ノ當時ト等シク各村協議スルカ又ハ各村會議決スルカ二者
其一ニ拠ラサレハ分離スルヲ得スト主張スレトモ各村ハ利害相反シ
又ハ利害ノ関係ナキモノモアレハ到底正当ノ議決ヲ為シ得ヘキモノ
ニ非ス故ニ直接利害ノ関係アル各村ノ代表機關タル組合会ニ於テ其
分離ヲ議決スルハ毫モ越權ニ非サルナリ依テ被告ノ与ヘタル裁決ヲ
取消シ訴訟費用ハ被告ノ負担タルヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ
被告答弁ノ要旨ハ本件ノ事實ハ原告ノ申立ニ異ナルコトナシ而シテ
組合ハ町村制第百十六条乃至第百十八条ニ依リテ成立スルモノナレ
ハ協議規定書ニ依テ運動スヘキモノニシテ其以外ノ事項ハ法律上為
シ得ヘキモノニ非ス原告ノ云フ如ク利害ノ関係ニハ厚薄アリト雖ト
モ已ニ五ヶ村カ協議規定ニ依テ委任シタル事項以外ニ亘リテ議決ス

ルハ越権ナリ又原告ハ組合規定書第十項ヲ援用シテ此規定ニナキモノハ本制ニヨルモノトストアル以上ハ組合会ハ町村会ト同様分離ノ議決ヲ為シ得ルト主張スレトモ其第十項ハ大ニ將來ヲ慮テ組合会ノ議決スヘキ事項ヲ限定シタルモノナリ若シ原告ノ云フカ如クセハ規定書ハ第十項ノミアレハ足ルモノニシテ組合ノ村長助役及付属員等ノ選挙方法モ規定書ニ定メ置クニ及ハス町村制第三十三條ニ依レハ足ルモノト云ハサルヘカラス畢竟規定書ハ今日ト為リテハ或ハ不充分ノ感アランモ法律ノ規定ニ依テ運動スヘキ組合会ニ在テハ其規定以外ノ事項ヲ議決スルハ越権ニシテ原告ノ禁令ナケレハ何事ヲモ議決シ得ルトノ主張ハ不当ナリ又原告ハ村会ニ於テ之ヲ議決スヘキ明文ハ町村制中之ナシト主張スレトモ各村会ハ之ヲ議決シ町村制第一百八條ニ依テ監督官庁ノ許可ヲ得レハ可ナリ又五ヶ村協議スルトキハ各村ノ協議委員之ヲ協議シ其手續ヲ尽セハ足ルモノナリ組合会カ組合規定以外ノ事項ヲ議決シ得サルコトハ其事実ハ異ナルモ御庁明治二十七年第五十九号備荒儲蓄ノ訴訟ニ付判例アリ故ニ被告ノ処分ハ正当ニシテ取消スヘキモノニ非ス原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ各証拠ヲ審閲シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ町村組合ハ町村会ト同一ニシテ其組合ヲ分離スル議決ヲ為ス

ハ一ニ組合ニ属スル権限ニシテ既ニ組合会ナル五ヶ村ノ代議機關ノ存設シアル以上ハ之カ分離ヲ組合会ニ於テ議決スルハ当然ナリト云フト雖トモ組合会ハ其協議規定ニ於テ付与セラレタル権限内ノ事項ヲ議決スルニ止リ苟モ規定外ニ渉ル組合分離ノ決議ヲ為スカ如キ權能ヲ有セサルモノトス其他原被告ニ於テ論弁スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキニ依リ説明ヲ与ヘス

右ノ理由ナルニ拠リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

明治二十九年十一月十一日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

裁判長行政裁判所長官	箕作 麟祥印
行政裁判所評定官	黒川誠一郎印
行政裁判所評定官	平山 成信印
行政裁判所評定官	今井 長一印
行政裁判所評定官	松浦 良春印
行政裁判所評定官	樋山 資之印
行政裁判所評定官	中村舜次郎印
行政裁判所書記	有賀啓太郎印

第1章 郡制市制町村制

明治二十九年十一月十一日行政裁判所ニ於テ原本ニ依リ謄写ス

行政裁判所書記 有賀啓太郎(印)

(五)

神奈川県津久井郡中野村外四ヶ村分離議決一件来歴

明治廿九年二月廿八日	組合会ニ於テ五ヶ村分離ノ事ヲ二月廿五日議決シタル旨報告アリ
全年二月廿八日	組合分離ノ意見書ヲ旧組合長大塚巳之助ヨリ提出ス
全年三月一日	旧組合長大塚巳之助辭職ス
全年三月二日	分離議決ノ旨県庁へ報告ス
全年三月二日	組合議員旧組合長ヲ徵喚シ面談説諭シテ意見書ヲ却下セントスルモ承服セズ
全年三月三日	八木国次郎へ臨時組合長代理ヲ命ス翌四日辭ス
全年三月四日	大塚藤吉へ臨時組合長代理ヲ命ス翌五日辭ス
全年三月五日	梶野一郎ニ臨時組合長代理ヲ命ス即日辭ス
全年三月五日	郡書記高城治寛ニ臨時組合長職務管掌ヲ命ス
全年三月六日	分離ハ議決スベキモノニ非ズ協議ニ依ルヘキ旨内務部ヨリ照会アリ
全年三月九日	分離ハ議決スベキモノニ非ズ穩当ナラサルヲ以テ取消サスベキ旨高城臨時職務管掌マデ注意照会ス

全年三月十日	分離議決スベキモノニ非ストノ趣旨ヲ以意見書ヲ却下ス
全年三月廿三日	八木国次郎組合長ニ選舉セラレ就任ス
全年四月二日	三月十六日組合会ニ於テ分離ノ件ヲ議決シタルハ不穩當ニ付取消スヘキ旨再議ニ付シタルモ取消スベキモノニアラスト決議シタル旨報告アリ
全年四月九日	分離ノ議決ヲ取消スベキ訓令ヲ発ス
全年四月廿二日	議決取消ヲ四月十八日再議ニ付シタルモ前議ヲ固守スル旨報告アリ
全年四月廿二日	訓令取消ノ訴願書ヲ郡參事会へ指出ス
全年四月廿七日	訴願書ニ対シ不明ノ廉質問照会ス
全年四月廿八日	質問ニ対スル答弁書ヲ提出ス
全年五月十八日	訓令ハ不当ニ非ラサル旨裁決書ヲ送付ス
全年五月十九日	裁決書ノ受領書到来
全年五月廿一日	訓令ハ不当ニ非サルト裁決ヲ施シタル旨県庁へ報告
全年五月廿八日	八木組合會長ヨリ知事へ訴願書提出シ来ル
全年五月廿九日	訴願書知事へ進達ス
全年六月三日	訴願ニ対スル郡長弁明書ヲ知事へ進達ス
全年八月八日	八月七日付知事裁決書到来ス即日八木訴願者ニ交付ス

全年八月十日	裁決書受領書到来
全年八月廿七日	八月二十日行政裁判所へ出訴議決ノ旨報告アリ
全年八月廿八日	原告行政裁判所ニ出訴ス
全年九月廿日	行政裁判所ヨリ送達書呼出状来ル
全年十月七日	答書ヲ郵発ス
全年十月廿三日	出任弁論ノ答

(内)

村会議 員ノ数	中野村 八	太井村 八	根小屋村 八	又野村 八	三ヶ木村 八	計 四〇
組合會議 員ノ数	四	三	三	二	三	一五

町村名	町村制実施當時ノ 下調	廿八年度予算	差引増減
中野村	一七、七、〇 円	一〇、七、〇 円	五、九、〇 円
太井村	一〇、〇、五	二、七、八、五	一、七、一、四 円
又野村	二、二、五、〇	一、三、七、一、八	七、七、五、六
根小屋村	一、三、九、六、六	四、七、三、三	二、五、一、四、三
三ヶ木村	一、三、九、〇、〇	四、五、六、七、〇	三、一、七、七、〇

町村名	戸数	廿七年度精 算額ニ対ス ル平均	廿八年度精 算額ニ対ス ル平均	分離後要ス ル經費ニ対 スル平均	廿八年度予 算ニ対シ増 減
中野村	二、五〇戸	—	—	—	—
太井村	二、三	—	—	—	—
又野村	一、三	—	—	—	—
計	四、一三	四、一三 円	四、一三 円	三、七、一、 四、一三 円	一、〇、一、 一、〇、一、 円
根小屋村	一、七	二、一、四、 六、八	二、一、三、 九、〇	四、〇、 七、七、 二、一、 二、一、 円	一、八、一、 八、三、 二、一、 三、 円
三ヶ木村	一、五	二、三、 八、九	二、五、 五、九	四、七、 七、二、 一、二、 一、二、 円	二、一、 三、三、 二、一、 三、 円

歳出一戸当負担額調

町村名	戸数	廿七年度精 算額ニ対ス ル平均	廿八年度精 算額ニ対ス ル平均	分離後要ス ル經費ニ対 スル平均	廿八年度予 算ニ対シ増 減
中野村	二、五〇戸	—	—	—	—
太井村	二、三	—	—	—	—
又野村	一、三	—	—	—	—
計	四、一三	四、一三 円	四、一三 円	三、七、一、 四、一三 円	一、〇、一、 一、〇、一、 円
根小屋村	一、七	二、一、四、 六、八	二、一、三、 九、〇	四、〇、 七、七、 二、一、 二、一、 円	一、八、一、 八、三、 二、一、 三、 円
三ヶ木村	一、五	二、三、 八、九	二、五、 五、九	四、七、 七、二、 一、二、 一、二、 円	二、一、 三、三、 二、一、 三、 円

中野村
太井村
又野村
組合歳入

科目	廿七年度精算	廿八年度予算	分離後要ス ル經費見込	廿八年度予 算ニ対シ増 減
雑収入	三、一、五、 七、一、 円	三、〇、〇、 〇、〇、 円	三、〇、〇、 〇、〇、 円	一、〇、 七、 七、 七、 円

第1章 郡制市制町村制

三ヶ木村歳入				根小屋村歳入			
雑収入	36,000円	55,000円	10,000円	計	1,000,000円	1,238,000円	1,567,000円
計	45,550円	497,500円	702,000円	447,000円	1,000,000円	600,000円	1,200,000円
交付金	—	—	1,500円	—	—	—	—
交付金	—	—	6,000円	—	—	—	—
地方税	—	—	6,000円	—	—	—	—
村税	35,000円	381,000円	6,000円	—	—	—	—
教育費	—	—	—	—	—	—	—
雑収入	45,550円	55,000円	10,000円	447,000円	1,000,000円	1,200,000円	1,200,000円

科目	廿七年度精算	廿八年度予算	分離後要スル経費見込	廿八年度予算ニ対シ増減
科 目	廿七年度精算	廿八年度予算	分離後要スル経費見込	廿八年度予算ニ対シ増減
会議費	12,000円	10,000円	10,000円	10,000円
土木費	39,000円	30,000円	30,000円	—
警備費	56,000円	36,000円	36,000円	—
諸税及負擔教育費	86,000円	37,000円	37,000円	49,000円
村還費	10,000円	—	—	—
衛生費	—	—	10,000円	10,000円
雑支出	—	—	10,000円	10,000円
予備費	1,000,000円	333,000円	1,000,000円	1,000,000円

中野村
又野村
組合歳出

科目	廿七年度精算	廿八年度予算	分離後要スル経費見込	廿八年度予算ニ対シ増減
計	350,000円	567,000円	750,000円	350,000円
交付金	—	—	1,000円	1,000円
交付金	—	—	30,000円	30,000円
地方税	—	—	600,000円	600,000円
村税	360,000円	771,000円	—	411,000円
寄土木	3,000円	—	—	—
教育費	—	—	—	—
補助税	7,000円	—	—	—

根小屋村歳出

計	四二五、五六一	四四七、三三三	七〇八、六〇〇	三三三、八六六
役場費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—
土木費	九、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—
教育費	二〇三、九六六	三六、八〇〇	四〇七、六〇〇	一七、六〇〇
諸税担及	一七三、三三三	一〇八、三三三	三五四、〇〇〇	一五、四七六
負計	—	—	—	—

三ヶ木村歳出

計	三六九、九四四	四五六、七五〇	七五八、八五〇	三三九、一〇〇
役場費	五、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	—
会議費	—	—	—	—
土木費	七、〇〇〇	四五、九一〇	四九、九一〇	—
教育費	二〇七、三三〇	二八、六五五	三六、八四〇	一四、四七五
諸税担及	一四三、三三三	一五四、一七五	三〇九、〇〇〇	一九四、八三五
負計	—	—	—	—

戸口調

町村名	現住戸数	人口
町野村	二五〇	一、〇九九
中野村	—	—
太井村	一一二	六二五
又野村	六三	三七一
計	四二五	一、〇九五
根小屋村	一七二	一、〇九五
三ヶ木村	一四五	八三五

(注) 中野太井又野三か村の上に「組合」と注記又根小屋三ヶ木両村の上に「独立」と注記されている。

基本財産調

町村名	種類	数量	価格	一ヶ年ノ収益
郡村宅地	反別	式畝廿三歩	三、二〇〇	ナシ
原野	地価	八四三十錢	—	—
同	同	百十九町三畝廿歩	二、三六、八〇〇	ナシ
同	同	式十四町三錢五厘	—	—
消防諸器具	拾七点	—	五、三三〇	ナシ
計	—	—	二、三六、三三〇	—
畑	反別	老町一反五畝廿七歩	六、七六〇	ナシ
	地価	三十三町八十錢	—	—

第1章 郡制市制町村制

村 木 ヶ 三				村 屋 小 根						又 野 村	中 野 村	村 井 太			
計	原 野	郡 村 宅 地	畑 田	計	建 物	原 野	山 林	郡 村 宅 地	畑 田	計	建 物	計	建 物	原 野	山 林
	同	同	同	反別 地価	老 四十坪棟	同	同	同	同	反別 地価	老 四十四坪棟		老 三十坪棟	同	同
	同 十六町老反九畝廿四歩 廿四七十錢貳厘	同 五畝十九歩	同 八畝廿七歩	老畝十五歩 四四六錢五厘		同 八十七町老反六錢四厘	同 八十七町老反六錢四厘	同 三十一町老反六錢	同 一五畝六歩	同 貳畝五歩			老 十三町七反七畝七歩 廿四十四錢	同 一五畝十五歩	同 七十七錢五厘
	三三、六〇	八、六〇	八、六〇	四、八七八	二、〇〇、一七	一、六八、七〇	三、七、五〇	四、六、七〇	三、三、八〇	三、三、三三	三、〇、〇〇	四、〇、六六	六、〇、〇〇	二、五、四六	四、六、五〇
	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

(津久井郡役所「行政裁判関係書類」(明治二十九年) 神奈川県庁蔵)